

## 上下配色による配色の好ましき・温度感に関する研究

1230467 清水成樹

教員指導 日道俊之

### 研究背景

色の好みは時代や文化、個人によっても変わりうるものである。私たちが認識する色とは、単色ではなく配色の方が多く、配色に関しての好みを調査することが重要になる。金・川端 (2017) によると、左右の配色の好みに関しては、左から右へ暖色から寒色 (Warm to Cool) が寒色から暖色 (Cool to Warm) よりも好まれた。この結果は、注目しやすい暖色を左に配置したことで視線がスムーズに動いたと指摘している。坂本 (2014) によると、視線の動きは左から右、上から下が基本とされている。このことから、上下に配置した配色の好みを調査することで、配色の好ましき評価に視線のスムーズさが影響しているのかを検証する。

### 研究目的

上下配置の配色の好ましき評価を調査し、視線の動きの影響を検証する。また、温度感も測り、単色での寒色の人気に配色にもあるのかを検証する。仮説として、上から下へ暖色から寒色の順番に配置された配色が好まれ、配色として寒く感じる配色構成がより好まれる。

### 調査・分析方法

Qualtrics でウェブ調査をおこなった。回答者の負担を考慮し、ふたつのグループに分けた。評価は、好ましきと温度感をそれぞれ 0 から 10 の 11 段階評価で回答してもらい、寒暖色の配色構成の評価の差を分析した。使用した刺激は、暖色系では赤・橙・黄、寒色系では緑・シアン・青を使用した。配色構成は、上から下へ暖色から寒色の順番と、寒色から暖色のふたつとする。

### 分析結果

好ましき評価は W to C の配置がその逆よりも好まれた。しかし、グループごとに単純主効果を検証するとグループ 2 (R-G,R-C,R-B) のみで有意な差となっていた。温度感に関しては C to W がその逆より暖かいという結果になった。グループごとの単純主効果の検証では、両グループ有意な差がとなっていた。グループ 1 で W to C (Y-G,Y-C,Y-B) が暖かく感じられ、グループ 2 で C to W (C-Y,C-R,C-O) が暖かく感じられた。

### 考察・結論

先行研究と同様の起点となる箇所に暖色を配置した場合に好意度が高かったため、視線動きを促すような配色が好まれる可能性が高まった。温度感の評価では、グループごとの解釈をした結果、配色としてより温度感の低い寒暖色構成がより好まれているということが示された。